

社会教育施設紹介

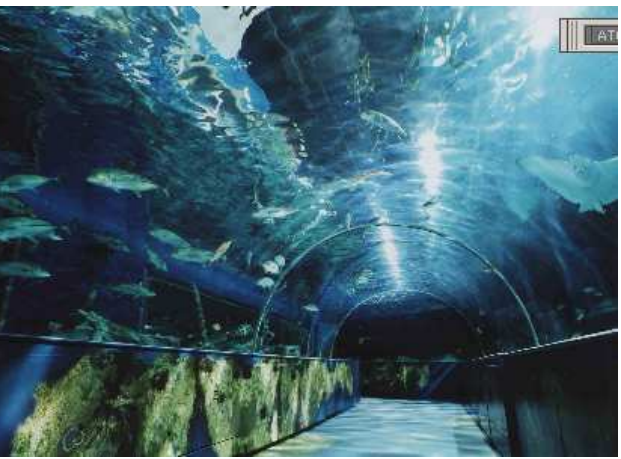
【施設名】しながわ水族館

【施設概要】

水族館施設が建てられたしながわ区民公園は、1971年に「広場と青空の東京構想」の一環として、ヘドロが堆積して悪臭を発生させていた運河を埋立てる事によって作られました。

公園には、残留水域間の水の行き来を確保するための水路が造られ、水を浄化するための浄化施設も設備されています。

たくさんの緑に囲まれた12ヘクタールの公園内には、プール・野球場・テニスコート・キャンプ場などの施設が造られ、1991年10月に水族館がオープンしました。



江戸時代の品川は、農業が盛んで用水や川にはたくさんの魚が棲んでいました。また、獵師町でもあったので、多くの魚介類が水揚げされ、江戸庶民への重要な供給源となっていました。

アメリカ人のエドワード・S・モース博士が、車窓から大森貝塚を発見したことは有名で、日本考古学発祥の地としても知られています。

このように水との深いかわりから、水族館建築構想が生まれ、品川区の新しい顔として、幅広い年齢層に答えた、楽しみながら水棲生物について学ぶことをコンセプトとして造られました。

しながわ水族館ホームページアドレス

→ <http://www.aquarium.gr.jp>

【特色ある取り組み】

たくさんの人たちに水族館を利用して頂くために、イルカやアシカのショーを公開し、トンネル水槽など水槽形状を変えた楽しい施設を作り、集客に務めています。これはどんなに良い展示をつくっても、見に来て頂かなければ、伝えることができないと考えているからです。

ショーは、決して楽しむだけのもので



はなく、動物に適度な運動を与え、動物の能力や生態・形態的特長を紹介したプログラムを組み公開しています。またトンネル水槽は、生物を上下から見られるように設計されたもので、普段では見ることのできない、お腹側の様子が観察できます。

スーパーでよく見られるマアジ・マイワシ・マダイなど一般的によく食べられている身近な魚も、あらためて生きているときの美しい姿を見直してもらうために展示しています。

展示生物の一部は、東京湾で採集してきたものも多く、東京湾の水質調査を兼ねた生物相の調査を定期的を実施して、その情報を展示コーナーで公開しています。その結果を見て頂くと東京湾は徐々に昔のきれいな海を取り戻しつつあることが伺えます。

また、施設や生物を使って、研究機関や大学などと協力して実験しています。

これまでには、展示水槽を見やすくするため観覧通路との照明照度関係の解析、生活・成長に必要な動物の摂餌量、イルカの血液生理学、イルカの視覚実験などを研究してきました。これらの成果は、調査・研究コーナーでパネルにまとめて掲示しています。



約 450 種 10000 点の展示生物の情報を提供するために、各展示コーナーには、生物を詳しく紹介した図鑑を小冊子にして、いつでもご覧頂けるように解説台を設置しています。

楽しみながら水族館に対して興味を持っていただくために、鯨の豆知識、魚の鱗の役割、小笠原諸島の紹介など、時期やテーマに合わせた特別展や季節ごとのイベントを多彩に行っています。

開館してから 15 年が経過しましたが、5 年ごとの節目に来館者からの要望を基に、ペンギン水槽・サメ水槽・アザラシ水槽を新築してきました。これは時代のニーズに応えていく、設立当初の基本理念にもとづいて実施してきました。

次回 20 周年に向けて、来館者の方たちに喜んでいただける施設を造ろうと、スタートを切ったところです。

【来館者数の推移】

平成 13 年度：684,000 人

平成 14 年度：669,000 人

平成 15 年度：612,000 人

平成 16 年度：687,000 人

平成 17 年度：727,000 人